バニッシュ！！

荒井尾麓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バニッシュ！！

【Ｎコード】
Ｎ２９９２Ｘ

【作者名】
荒井尾麓

【あらすじ】
その時代は戦争に包まれていた。
大陸屈指の二大国による長い戦争、それは悲しみを産む無慈悲で大いなる母。
戦火の中で主人公たちは悟る己の無力さを。
荒井尾麓、初投稿作品ですっ！
よろしくお願いしますっ！

序章

透明人間。
それは漢（おとこ）のロマン。
だが、よく考えてみてくれ。
この小説で嫌というほど使い古された、この超能力。
確かに、確かにな、悪戯したりするには最適だろうよ。
でもな、それだけだぜ。
俺はこの力では、何一つとして、守ることなんてできなかった。
ただただ、無力だった。
そんな無様な、クズ野郎のくだらない感傷に少しだけでいい、付き合ってくれ。

＊＊＊＊＊＊

大陸暦２７４年、ヴァーレ大陸内陸中央地域、そこには二つの山脈とその間にある高原を挟んで東西に大陸屈指の二大国が存在した。
元々、この二つの国は事あるごとに小さな諍いを繰り返していた。
５年前、東側のガリアヤ王国の魔空挺が山脈に挟まれたシエラ高原で実験飛行していたのを、西側のルーゴバルド皇国が打ち落とし、それに対して自国の防衛のためという発表をしたが、攻撃するための武装を一切していなかったのにどうやって攻撃するのかという議論に発展し、言い争いの結果戦争に発展したのである。
まるで子供のけんかだ。
言葉では決着が付かないからといって暴力で解決しようとする小さな子供。
なまじ力を持つ国同士の喧嘩なので多少の怪我程度では済まない。
結果、両国合計すれば１０万人以上の死者を出した。
この時代のヴァーレ大陸の人口が１００万人、ガリアヤとルーゴバルド両国の人口の合計が５０万人と言われていたので大陸の約１０％、両国の約２０％の人口がこの戦争によって失われたことにな

る。
この戦争が始まった時、俺は１２歳だった。
戦争は時間が過ぎるにつれて激化していった。
これを目の当たりにして俺は黙っちゃいなかった。
都合のいいことに、俺には特別な能力が備わっており、その悪戯程度にしか使えない能力で俺は戦う決意をした。

序章（後書き）

荒井尾麓です。
発投稿作品です。
つまらないと思いますが、そこら辺はご愛嬌ということで温かい目で読んでもらえるとありがたいです。

姿無き兵士（前書き）

間が開きましたが、第二話です。

姿無き兵士

数え切れないものたちが流した血の臭い。
もう生き返ることのない死者たちが発する独特の死臭。
学び、会得した魔術を使う魔術師たちの叫ぶような詠唱の声。
生まれながらに特異体質を持って生まれた超能力者たちの雄たけび。
何度吸っても、何度聞いても、慣れることはないだろうと思う。
「バニッシュ、行動開始時刻よ」
「ああ、分かってらぁ」
俺は遠くに見える戦争の様子を見ながらも、誰もいない虚空に答える。
「ガリアヤ王国第二独立遊撃部隊、これより作戦を開始する。準備はいいだろうなぁ？」
ここは二つの山脈に挟まれた高原――――シエラ高原の広大な土地の中にある小さな林の一角。そこでは姿なき声の会話がなされていた。
「誰に口を聞いている。ここに来てまだ準備ができていないなどという間抜けなことをするのは、どこぞの馬鹿隊長だけだ」
「それは暗に俺のことを言って喧嘩売ってんのかぁ？おいっ！？」
「それ以外になにがあるというんだ。それともなにか、お前はその程度のことも理解できないような馬鹿だったのか？」
「よしっ！分かった。その喧嘩俺が買ってやらぁぁ！！！」
その姿なき声の後、金属同士のぶつかるガチャガチャと言う音が小さな林に響く。
「やめなさい、敵の斥候に見つかったらどうすんの！？」
「そうですよ、ここで見つかったら僕たちの任務は失敗なんですよ」
喧嘩をしている二人とは別の声が二人の喧嘩を止める。
「分かってらぁ、クソッ、覚えてやがれ」

「それはこっちの台詞だ」
ついさっきまで続いていた金属のぶつかる音は、その会話の後からぱたりと聞こえなくなるが、その音の源となる物の姿はない。
「ま、隊長として親切心でいってやるが、戦場で『偶然』一人外れて敵に見つかるなんてするなよ」
「お前こそ、『偶然』見方の流れ弾に当たることには気をつけることだな」
この二人の間の険悪な雰囲気は和む気配を微塵も見せない。
「はあ、隊長と副隊長がこんなんで大丈夫なのかな？」
「それ、作戦のたびにいってる気が、いたたたたっ！引っ張らないで下さい、ソードダンサー」
「……退屈」
部隊の今後を憂う女性の声と柔らかな響きの少年の声と幼さが残る『ソードダンサー』と呼ばれた少女の声が、誰もいない虚空から聞こえる。
「ちっ、まあいい。とりあえず作戦開始だ。一応確認しておくが、今作戦は敵重要拠点への奇襲だ。戦局は客観的に見て五分五分、ここで敵の動きを鈍らせることで戦局の流れをこっちに引き寄せ、勝利に近づける。敵も奇襲対策の罠を張っているはずだ。気を引き締めていくぞ」
「「「「了解」」」」
姿がなく、喧嘩もしているが、確実に統率の取れた様子で指示を出し、答える五名。
「さぁ、いっちょ暴れてやるか！」
大陸暦２７４年５月１９日　終戦まで後２０５日

姿無き兵士（後書き）

まだまだ謎が多く、分かりにくいと思います。それでも追っていただけるとありがたいです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2992x/

バニッシュ！！

2011年11月8日04時32分発行